

出口を円錐の栓で、ふさが水が無くなるまで桶で水を權だし、井戸の中へ入って丁寧拭き掃除をして、きれいになったところで栓を抜き再び水を満たされるのでした。

『井戸がえ』は、年に一度の事、何故だか分からないけど綺麗になるのが心うきうきしたことを今でも思い出します。

会員の皆さんの趣味をお聞かせいただくコーナーです。

私の趣味

高畑 善憲

趣味といっても、あえていうなら鉄道である。時刻表、鉄道旅行日本地図、列車年鑑があれば、即座に、全国でどの路線を何時頃どのような形式の電車・列車がどの付近を走行しているかが分かるので大変、興味深い。

とはいえ、近くを走る東海道本線(びわ湖線)に目を向けてみると、昭和三十一年に米原・京都間が電化され、東京・神戸間の全線電化が完成した。昭和三十三年十一月に「こだま」号が電車特急として一五一系を使用。六時間五〇分で東京・大阪を結び近代電車の幕開けとなった。



昭和四十一年頃には、正面二枚窓のデザインをした八〇系旧型電車が登場。オレンジ色と緑の塗色は「湘南形」と呼ばれ、その後、「比叡」「なにわ」号など準急・急行用として一五三系電車が使用された。また普通用には一一一系(後に出力増強して一一三系)電車が登場した。なぜか湘南色がなつかしい。その後、しばらくして新快速用に一一七系電車が登場したが、今は草津線、湖西線で運用されているようだ。さらに最近では、二二二系、二二三系及び二二五系なる高性能電車が走るようになり、快適な通勤や列車の旅が楽しくなった。

東海道本線には、この他に特急、寝台列車、貨物列車などの種類の列車・電車が走っているが、今は、近江八幡駅に特急「はるか」「びわこエクスプレス」号が停車するようになり、便利がよくなった。あわせて、いろいろな系列の電車・列車が走っていて見ても楽しくなる。

ここで、しばし近江八幡駅を紹介

一八八九年(明治三十二年七月一日)八幡駅として

開業。一九一三年(大正二年二月二九日)湖南鉄道線(現在の近江鉄道八日市線)の新人幡駅が開業。一九八一年(昭和五六年)八月に現在の橋上駅舎に改築。



私も本年三月頃には、青春切符を使って、直虎のドラマにあやかり奥浜松の井伊谷を訪問したが、米原からは、JR東海のオレンジ色のラインが入った三一一系、三二三系電車及び「おんな城主直虎」と電車の正面車体に描かれた天竜浜名湖鉄道に乗れて、思い出深い旅物語となった。